



子宮頸がんワクチンを接種しましょう！！

子宮頸がんはウイルスによっておこる病気です。その大部分は、ウイルス感染を予防することによって予防できます。

子宮頸がんワクチン（HPV）は、2013年4月から定期予防接種（国・自治体が強く勧めているワクチン）になりましたが、ワクチン接種後の原因不明の痛みを訴える事例があったことを機に、同年6月に積極的な勧奨を中止しました。これを受けて、2015年12月17日付けで世界保健機関（WHO）の専門委員会（GACVS）は、「現時点まで、ワクチン接種推奨に変更があるような安全上の問題は確認されない」とする声明を発表し、同時に200万人以上を対象にフランスで行った調査の事例などを紹介し、接種後に起こる自己免疫疾患について、「接種した人としていない人とは有意な差がなかった」と声明を出しています。WHOは「リスクは仮に存在したとしても小さく、長期間続くがん予防の利益を考慮すべき」として、日本を名指しして非難しました。日本では、今のところ、ワクチン接種勧奨の再開の目途は立っておりません。

本年10月、関東ブロック小児科医会（9県）が静岡で開催され、各県での子宮頸がんワクチンの接種状況の報告がありました。各県とも接種者は極わずかで、接種者ほとんどが医療関係者のお子さんのようでした。

このままでは日本は世界で最も子宮頸がんが多い国になってしまうのではないかと危惧しています。私どもは子宮頸がんワクチンの接種をお勧めしています。小学6年生から高校1年生までの女兒が接種対象者です。3回の接種が必要です。

お子さんの将来を考え、ぜひ接種をしてあげてください。



すずか小児科・皮膚科クリニック

Suzuka Pediatrics & Dermatology Clinic